

ブライト Brightness ネス

三和グループ社内報「ブライトネス」2023 新春号

株式会社三和サービス

三和道路維持株式会社

株式会社エイチ エム エス

サンワ警備保障株式会社

<http://www.group-sanwa.co.jp>

87



三和グループの中核、株式会社三和サービスの創業50周年記念の事業も終え、昨年11月から51期に入りました。次の25年「Next25」はすでに始まっています。新しい気持ちで「次」に向かっていきましょう！
新春号の今回は林正和社長のインタビューをお届けします。

良い環境、快適な空間を

創り出しているのが「我々」と

プライドや自信を持ってらこう！

●新年あけましておめでとうございます。よろしくお願ひいたします。

社長 はい、「じやうこそよろしくお願ひいたします。

三和サービスはおかげさまで昨年11月に51期に入りました。50期を目指していたときは50期、50期と思っていましたから、それを越えた今、目標を感じづらくなったかも知れません。

だからこそ「Next(ネクスト)25」。次の25年、まずは四半世紀先を見据えて、一緒になってやっつけよう！という旗印が必要です。やっつけていることはそう変わりませんが、旗印が変わることで一体感を持ってやっつけよう！スタートが大事だと思っています。

●創業50周年記念誌のダイジェスト版も完成し、順次皆さんにお配りしている予定です。

社長 過去があつて今があり、未来がある。その時々が「現状」で、その時にいかに情報を取り入れ、動き出すか。タイミングやチャンスをつかむことができるのか？はたまた、斜陽になってしまうのか？会社は生き物なんですね。

記念誌のダイジェスト版を読んでもらうと、三和サービスの生い立ち、どのようにして清掃業と出会ったか、どんなふうに展開していったかが、会長のお話なども通じてわかります。ダイジェスト版を通じて、歴史や現状を感じてもらえたら嬉しく思います。広く皆さんに伝えること、よし頑張ろう！と皆で共有しているのではと期待しています。

●次の25年を目指す「Next25」という旗印。今、考えるべきことば？

社長 三和サービスは社名に「サービス」と名がつく以上、サービス業が基本。すなわち、「人」が関わるといふこと、それに尽きます。現場は多様ですが、それぞれの現場すべてで活躍する人が「Next25」という旗印を持ってほしいと思います。

社是三和は人々に、美しさや快適さと安全を提供できる優しい人間環境の創造の演出者である」とあるように、私たちは快適な環境を創り出すことが本分。「我々がこの仕事をしていなかったら、快適な空間を提供できない」「大事なところを守っているんだ」といふことをしっかりと感じて、誇りを持ってもらいたいと思います。

サービス業や飲食業の年収は、残念ながら全体を見れば多いとはいえない業種であることが現実です。けれども、仕事へのプライドを持つことが我が社の強み。三和で働いてよかったという思いを持ってほしい、というのが私の願ひです。

●サービス業は「人」があつてこそですね。

社長 その通りです。サービス業というのは人との関わりでしか生まれません。言い換えれば、人の関わりがあるからこそ自分のやりがいや生まれる業種です。お客様にサービスを提供し喜んでくださる「ありがた」に「対価をもらえらる。その根本

を見失ってはいけません。もちろん、サービスに関する技術は最新のものに更新していきます。だけど、やってやっただぞ!!と思っけてはダメ。押し付けはサービスではありません。

繰り返しますが、三和が何をやっているか？と問われたいら、その答えは「サービス」。具体的には清掃、警備、良い環境づくりです。そのサービスを担うのは「我々」という自覚を持ってください。自分たちがいないとお客様の仕事場は快適になりませんし、ショッピングの時間も気持ちよく過ごせません。

●時代の変化があつても、「サービスの根幹は不変ですね。

社長 そうです。お客様が喜んでくださることに、我々の最大の喜びがあります。もちろん、変化も必要です。昨年3月に発表された「岐阜県の将来人口推計」によれば、2050年、岐阜県の人口は137万人になると予測されています。現在は200万人弱ですから、これは大きな変化です。

変化に対して機敏に対応していくためにはどうしたら良いでしょうか。それは「聞く耳を広げる」といふことではないかと思ひます。あれ？！と思ふことをすくんに調べて、取り入れてみる。皆で話し合つてみる。人は誰しも自分の経験値でしか話せず、経験値がないと疑つてしまつたものです。しかし、聞く耳を広げて情報として聞き入れ、変えるべき時は変えていく必要があるります。

できる・できないの判断を頭だけするのはなく、10のうち9失敗しても1成功すればいいというくらい思いを持っていきたい。チャレンジしていかないと前へは進めない。それぞれの持ち場で、それぞれがチャレンジをーと伝えたいですね。どんな時代であつても、世の中に必要とされているものと商売にはなりません。いかに先読みするか？ということをお頭にしっかりと入れておきたいと思ひます。

●新しい時代に向かって取り組むことはたくさんあり、社内報の裏面でも少しずつ紹介しています。

社長 そうですね。たとえばSDGsは最近すっかり浸透してきた考え方で、世界中で取り組むべき課題でありゴールですが、極端なことを言えば、「この取り組みは今まで多くの人や会社が一生懸命やつてきたことでもあります。三和に置き換えてみても、地道に取り組んできたことでもあります。昔からマニュアルはあるけれど、マニュアルも最新のものに更新しないといけないと考えています。三和のサービスは、誰が担当しても同じ優れた品質でないと。品質の均一化も重要なことです。

会社の存在意義が保たれ、高められ、会社が継続していくこと。それが半世紀の歴史を礎に、次の25年、Next25を目指していく私たちの旗印です。共に頑張つていきましょう！



SANWA REPORT
全社員会議
令和4年11月10日(木)開催

今回の全社員会議では、林信之会長から訓話をいただきました。そのエッセンスをブライトネスでお伝えします。

「学 び 直 し」

今日は「学びなおし」という題目で、DX、デジタル化を中心に話します。週刊ダイヤモンドで「自己流スキルアップ」についての記事を見ました。新聞記事では、トカイはDX人材育成を進めるため、社員向け講座を開講して3年180人の受講を目標としています。大塚商会は、「顧客と商材最適提案」をするため、上司に代わりデータが助言しています。NHKの選挙結果速報が、開票率数パーセントにもかかわらず当選確実と出るのは、出口調査により統計学で予測しているからです。

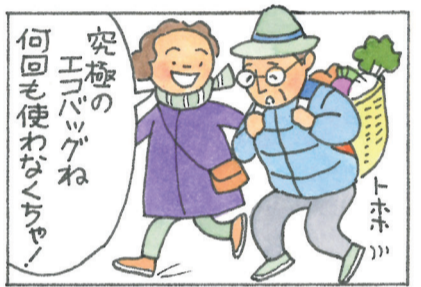
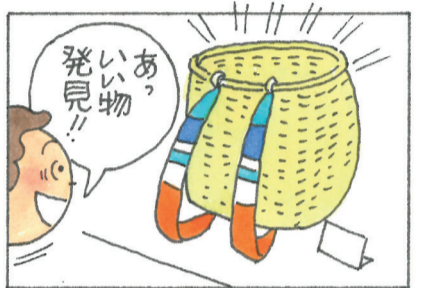
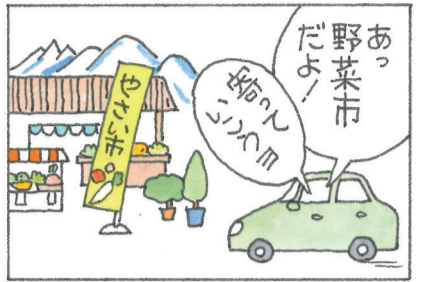
解決する方法を考えよう！
挑戦しないと道は開けない。

● 三和グループ/林信之会長 訓話

このように、各企業は理数的考えを用い、数字で示して物事を判断しています。私たちもお客様と接する時に、今迄の経験ばかりでなく、どのような資料と方法を提示して理数的な提案をしただけかについて、考えなくてはならない。これがDXなんです。当社のDXセミナーは、岐阜県でも最先端を行っています。滋賀大学データサイエンス学科齋藤教授を講師に招き、はじめは情報分析から始まり、Googleフォーム、プログラミングへと勉強が進んでいます。プログラミングの勉強はわかりにくいですが、いまや小学生が学校で勉強する時代です。「お父さん、お母さん、プログラミング教えて」と言われ、「お父さん、お母さんの時代は習ってないよ」って言わなくていいように、ぜひ「学び直し」をしてほしい。拙い小生の体験からいえることは、プログラ

ミングは、言葉を使い幼子が“ママ・パパ”を自然に覚える様に、何度も何度も繰り返し、書くこと、聞くことと知りました。私たちが作るソフトは、大手ソフト会社が作る大きなソフトではありません。業務効率化を図れる小さなソフトをいくつも作るために学んでいます。「自分の仕事がかつたらいいのに」をソフトで作るのです。時間をかけて行っていた仕事が1秒2秒で出来上がり、業務効率化が図れ、人手不足の解決方法につながるはず。そのためには、言われた仕事だけを行うのではなく、常に仕事に疑問を持って、仕事を当たり前と思わないことです。人が“いないない”と言って嘆くだけでなく、何か解決する方法はないかを考えてほしい。最後に「挑戦しないと道は開けない」という言葉で、本日のお話を終わらせていただきます。

サンワのWw!
作/三宅よしこ No.16



私もできる！
SDGs
エコバッグ

今回も、私たちにとって身近で今すぐできるSDGsの取り組み、「エコバッグ」についてご紹介します。



これはSDGsの17の目標の中で、目標12.「つくる責任、つかう責任」、目標13.「気候変動に具体的な対策を」、目標14.「海の豊かさを守ろう」に関係します。

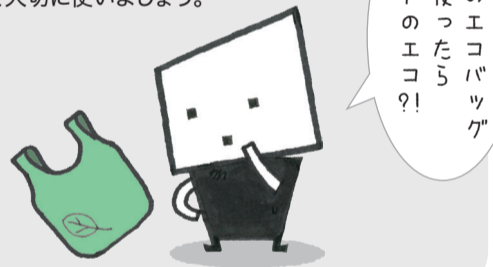
皆さんは「エコバッグ」を使っていますか？海洋ごみ問題や地球温暖化といった地球規模の課題への取り組みを背景に法改正が行われて、2020年7月1日からレジ袋が有料になりました。今では買い物でエコバッグを使う人も多くなり、マイバッグの習慣が定着してきたように感じます。1枚持ち歩くと便利なエコバッグですが、使い易さや機能性はもちろん、様々なデザインのものもあって何枚も持っている方も多いのではないでしょうか。レジ袋よりエコバッグの方が環境に優しいと思いますよね。

では、この「エコバッグ」、いったい何回くらい使えば『エコ』といえるのでしょうか。

原料の調達、輸送、製造過程の中で、どれくらい二酸化炭素などの温室効果ガスが出るかを計算して数値化したデータによれば、50回から150回使うと、ようやく『エコ』と言えるそうです。一般に使われているエコバッグというのは、綿やポリエステルといった素材で出来ていることが多

く、素材を作る段階でも環境への影響があり、そこからまた糸を紡いで布を織っていくという様々な段階で出る環境影響を積み上げていくと、エコバッグはレジ袋の50倍から150倍の温室効果ガスが排出されるため、結果的に環境影響はレジ袋の50から150倍という数字になると言われています。

何度もエコバッグを買い替えて1枚当たりの使用回数が少ないと、それはエコではないということになるわけですね。SDGsの目標達成のためにも、お気に入りのエコバッグを長く大切に使いましょう。



3年ぶりに開催！各種表彰、社員発表で充実した内容に。

令和4年度 第20回 三和グループ安全衛生大会

- 開催日時: 令和4年10月29日(土) 9:30~11:30
- 開催場所: 本社4階多目的ホール

新型コロナウイルスの感染拡大により中止していた安全衛生大会を今回3年ぶりに開催することができました。規模を従業員のみに縮小し、71名の方に出席いただきました。

三和グループ労働安全衛生標語や岐阜県ビルメンテナンス協会 令和4年度労働災害標語の入選者表彰に加え、今年は株式会社三和サービスが創立50周年を迎えたこともあり、実行委員会による永年勤続者への記念品授与やイメージキャラクター愛称募集の入選作品表彰も行いました。

社員発表では三和サービスの中野次長が『転倒事故について』というテーマで発表。実際にあった事故を例に転倒事故の危険性、安全対策について考えさせられる内容となりました。最後にサンワ警備保障株式会社の和田さんによる安全宣言で無災害を誓い、大会を終了いたしました。



▲安全宣言・指先呼称



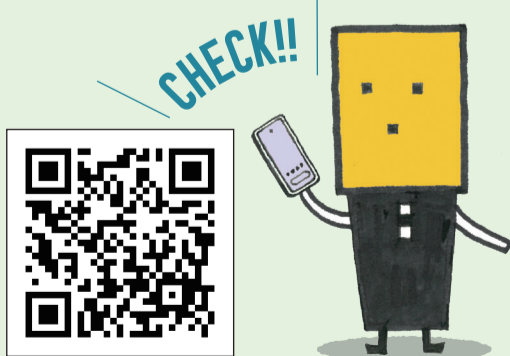
▲中野次長 社員発表

三和グループが目指す
DX化の取り組み

給与明細書電子化

当社では、毎月社員の皆様に交付しております給与明細書等につきまして、DX推進の一環として、令和5年6月から電子化に切り替える予定です。給与明細書電子化にあたり、全社員の皆様の同意が必要になります。

つきましては、下記URLから内容を確認の上、必要事項を記入して送信してください。



◆◆◆ 編集室から ◆◆◆

新年あけましておめでとうございます。今年のお正月は穏やかでした。天気も良く晴れやかなお正月でした。株式会社三和サービスは51期目です。昨年つむぐ・つなぐを迎えて第一歩を歩み始めました。また、各社ともに新たな歩みにDXが不可欠になりました。給与明細は電子化になります。初めは大変苦勞があります。ただ世界的にもペーパーレスでありDXにシフトしてはならない時代となりました。今年の1年間はDXが課題です。皆様頑張って勉強しましょう！今年もよろしく

三和グループ社内報 2023年 新春号(令和5年1月25日発行)
発行所 株式会社三和サービス
本社/〒500-8286 岐阜市西鶴1丁目52番地
電話/058-273-5653(代)
Brightness



本紙は環境に配慮した原材料を使用しております。